

古賀智裕先生 : Arthritis & Rheumatism (2005)52:2761-2767/ Fertil Steril. (2009)3:694-697.

**“リュープリンは SLE 女性の強い味方になるか”**

**Use of Gonadotropin-Releasing Hormone Analog for Protection Against Premature Ovarian Failure During Cyclophosphamide Therapy in Women With Severe Lupus**

【背景】SLE は、若年女性の発症が多いため、IVCY などの治療による卵巣毒性が問題となります。IVCY の卵巣毒性は原始卵胞の発達の段階が最も障害を受けやすいため、GnRH を併用し FSH 抑制による卵胞発育抑制療法を併用することにより卵巣保護効果が期待されています。

【方法・結果】最初の論文は、ループス腎炎女性への IVCY 療法に対する GnRH 併用による卵巣保護効果を早発閉経 (POF) を Endpoint に検討されました。月経終了直後に GnRH を投与し、FSH が一旦上昇後低下する 10 日間後に IVCY を行う治療を半年間で計 6 回行った結果、コントロール群 20 名では 6 名 POF に至ったのに対し、GnRH 治療群は 20 名中 1 名と有意に POF 移行のリスクの低下を認めました。次の論文では乳癌に対する化学療法前に同様に GnRH を投与したところ、8 カ月後の段階でゴナドトロピンの上昇、卵巣ホルモン機能異常の進展を抑制し、月経や排卵の再開が有意に高頻度に確認されました。

【結論】このように、SLE や癌に対する化学療法の現場で大きな問題となる女性の生殖能を維持するための治療法として、GnRH リュープリンが強い味方になってくれそうだと、“女性の味方”、古賀先生にご紹介いただきました。(文責 阿比留)